
デスレス
DEATHLESS
1
六道神士
Rikudou Koushi
YOUNG KING COMICS



姐様姐様ー
なんだ
お腹が空いたのであるです
まったく…誰のせいか…
痛～いのです
ぬしが無駄遣いするからであろ馬鹿者
ハァッ
む～
！
フン
フン
姐様臭うのでありました！
なんだ珍しい…このような田舎に？
やれ…誰かは知らぬが…


第一話　気の毒なひと
気の毒にの


デスレス
DEATHLESS
1
六道神士
PRESENTED BY


今日は朝から最低です
レポートの再提出くらって旅行に置いて行かれたうえに
よりによってひとりの時にしつこい客が――
ハァ
――何か勘違いされているようですが
我々は地球の活性化の為にこちらの敷地を買い取りたいという方の代理人です
ええと…祖母たちがいないとあたしにはなんとも…
お婆様方はおられない？
ええ…温泉に…
決して悪くない条件になっております
どうかご一考いただけませんか
いいですねぇ いや 優雅だ
なんだジジイ共はいねえのか
ズイッ
ですから あたしに言われても…
いえ…あなたでいいんです


宮森水城さん
現在 この土地の所有者はあなたなんですよ？
は？
ご存じない？
だからよ お前が引き受けりゃ俺達ゃ帰れるんだよ！
おめえんとこのジジイにボコられた傷まだ痛むんだぞコラ
あれはおばあちゃんを突き飛ばしたりするから…
なんだとコラ！


見苦し
殿方二人で小娘に凄んでお楽しみの折ちと失礼する
こちらの家人に用があるのだがな
吾は――
スザクと申す
は…
ほんとにきれいなひとを――
あの…


・・・うちに何か？
――はじめて見た気がする
ほう…ぬしがここの家人かえ？
るあらぁこっ腰が…
ヨロ
アニキ！こいつヤっちゃっていいすかアニキ！
やめろタカ
――どうやら
お客様のようですし一度失礼させていただきます
いくぞ
チャッ
バタン
へっへいっ
昼食後また参りますよ・・・それまでにお考えを
またって…困ります
だから何度来られてもここを売る気は――
ブロロロ


ドギャ
ゴキ
ゴキ
やふん
ズル
誰!?
事故!?
大変!
俺ぁ…
オレなにも…
こいつが
飛び出して
きて……
オロ
オロ
オロ
そんな事より
早く救急車を!
救護義務です!


おやおや 吾のツレになんという事を
姐さん… 痛いかもですぅ〜
プルプル
プルプル
ああ なれど幸い このツレは鈍くて頑丈な上に記憶力というものが無くてのう
酷……
のう 旦那
ぬしのツレも色々と調べられるのは困るのではないかえ？
よいツレをお持ちで羨ましい
なんの 愚鈍なツレで申し訳ない


どうすれば物覚えが悪くなれますかね
些細なことよ――
とりあえず今日一日――
ここに一切関わらぬこと――
……
ザザァ……
それだけで？
嫌かの？
聞かない道理はありませんとも
お大事に
ザッ
あっ あのっ！
道交法七十…何条だっけ
運転は俺がする
旦月アニキ……オレ……
バタン
バタッ
事故は届け出の義務が……
ひき逃げになるんですよ！
ブォオオン


いてて…
ジジイ共といい
ヘンな女といい
面倒ばっかじゃ
ねえすか
だいたいなんで
こんな辺鄙なトコに
コナかけんすか
何考えてんすかね
周りに土地なんか
いくらでも――
スポンサーに
意見とは
勇ましいな
タカ
おめぇハッパは
やめたんじゃ
なかったのか
ヘッ？
いやほんの
少し……
すいやせん
あいつも
ほんとに急に
飛び出して
来たんで…
すんませんっス
すんませッした！
アニキ
タカ
シートベルト



もうよいぞ
カマド
はいでんす
ニキ
わっ？
だ…大丈夫…
なんですか？
すっごい音してましたけど…
心配ないでのあるのです
体柔こいのですし
ハルハルハル
この人も——
なんて綺麗——
娘
娘
はっはい？


こちらの住まいにはぬしひとりか？
いえ…祖父母が…
今日はいませんけど…
あ…だからお婆ちゃん達に用なら明日には——
いや……ぬしひとりならよいのだ
今日はもうあれらも来るまい
余生を大事にな
どうも…あのひとたちしつこいんで…
実際助かりました…あの…
私宮森水城っていいます
スザクに——
カマドだ
サク
サク
サク
源氏名？
延寿お爺ちゃんまたヘンな飲み屋に通ってるのかな
お婆ちゃん達に伝えておきます
あーあ……



ぜーんぜん レポート 進まないし
スザクに カマドー
派手なひとたち だったなー
モノが 違うかんじ…
あんな風に キレイだったら…
絶対 普通の人生 送れなさそ
いやいや
地味が 一番
ん…？


やはり・・・・事件のほうか
若く病も無ければ…まあそういう事であろうな
なんかアブラ臭いであるですよ
下手人がおりましたらよいであるすか？
すきにしやれ
クソッ あいつらのせいで面子ガタガタじゃねぇか 冗談じゃねえ！
約束なんか知るかクソジジイ共がいねえ間がチャンスじゃねえか
オレの手柄にしねえと…マジ旦月アニキに殺されちまう！
あの…
見つかってる時点で台無しなんですけど…


ちくしょう！気が付きやがったか！
こんだけ灯油臭けりゃそりゃ…
えっと刑法百…何条だっけ
現住建造物等放火は懲役5年以上死刑アリでキビしいですよ
こんな土地と引き替えは割に合わないんじゃ…
バカにしやがって…
いえ…だから帰ってもらえれば…
ひけらかしやがって…見下してんだろお前もよ！
学があるからってよ！
オオオオレを！
酩酊しておるな…薬物か
…食いでなさそうであるですなー
まず……


尋問・恐喝の
典型的手口
仮想敵と
味方役を演出する
一種のマインドコントロール
憎まれ役
演じてる人だと
思ってたのに…
本物の
あぶない人だ
武器を持った
相手には えっと…
得物を狙う？
頭を狙う？
武蔵（ムサシ）おじいちゃん
なんて
言ってたっけ
あ……
思い出した…


ガシャ
「警察に――
電話する」…
だよね
よし！
誰か――
よしとか…
言った…
……
ガク


は…
目覚めたか…
気の毒な
…?
昼間の…
ひと…
あれ…
あたし…
たしか
刺されて！…
安心せよ
傷は無い
え？
ほんと…
痛くない…
よかった…
刺されて
なかっ…


確かに刺されたとも
あの…助けてくれたのはお礼言いますけどなんで脱がされて——
あっ あたし そういう趣味無いですッ
最初がアブノーマルとか嫌——!
ほう…生娘であったか
熟々気の毒だが


すぐに終わるゆえ我慢せい
大きく触れておらんと面倒でのう


ぬしのしだをもらうにはな
しだ?
しだって何?
ドクン
我慢ってなに?
どんなマニアックな初体験…
ぬしは今日終わったのだ
やだ…この人達なにしてるの?
ああもう今日は○○○いばっかり!


それを吾が助けた
……？
そして ぬしのしだを いただく
パキ パキ
気の毒だが ぬしの運命は 変われぬよ
…眼鏡が なくて はっきり 見えない けど…
気の毒だが 吾らの せいではない
ひとが…
なくなっていく…？


時を
ドクン
今終わるはずのぬしを救ったのは吾だ
なれば
お前が老いて終わるまでの時過ぐ全ては吾のもの——
ドクン
怖い…
この人がじゃなくて…
ドクン
怖いことが起こる…!
いや…
ドクン
ドクン


怖い！
怖い！
怖い！
怖い！
こんなの



いやっ!
ぬ?
!?
待て待てい!
何だこれは!
逆に吾を…!
怖い…
助けて!


ぶる?
はふ…食いでが無いですねの
ごちそうさまでしたりー
あれ?…何も……起こってない?
もう…怖くない…



あれは夢で…
あたしは変質者に襲われたみたいな…
ピク…
ふん…騙されたわ
ギッ
地味な態をして大したタマだ…危うい所であった
変質者!
なっ…
これ以上関わっておれん去るぞカマド!
あいです!
襲っといてなんて言い草!
クルー
姐…
カマド…よくも間違えたね
今代にもこのような輩が残っておったとは
変態に怪しげ呼ばわりされたくないわよ!


あやうく喰われるところだったではないか！
そんな趣味無いです！
もうわけわかんない…出て行って下さい！
言われずともこのような縄張りに長居なぞできぬわ！
行くぞカマド！
えーと…
姐様…その…
刺されたり犯されそうになったりなんて日！
お風呂入り直さないともう…服どこ？
羽織はどこだ
ええい体が重い！
姐さま～


久々に食べ甲斐のある時過だと思うたが
こやつ…平垣のくせにとんでもないタマだわ
あははははは
処女とかつるぺたとか悪かったわね！
女同士じゃ強姦罪にはならないけど強制わいせつはアリですからね！
あの〜スザク姐さ…
笑うておらんでさっさと着物を持ってこぬか！
最初からここの森はなにやら重苦しいと思って…
あ？




何これ!
これは…
体が勝手に…?
ええい勝手にならぬ!
きゃっ
落ち着くのだ
同感
これは幻聴と幻覚
全部夢
あたしそんな趣味あるのかなあ
欲求不満なのかな
ドクン
ドクン
それは逃避だ
あたしの中になんかいる!
キャー
いやぁ!あたし痛い人みたい!
中の人とか
こちらの台詞だな
どうやら捕らわれたのは吾だ
オロオロ
オロオロ


これ ぬし殿よ
水城です！
ミズキ殿が何者かも存ぜず地味な容姿で格を見損なった非礼は詫びよう
だからどうか吾を解放してもらえまいか
そんな事言われても
失礼に詫びられた！
どうせ地味だもん！
なんかわかんないけど地味で結構よ！
は〜〜…
お願いだから元に戻して！
!?
メリィ
何？何？
どうだカマド
どっちもダメなのでした〜
ふむう ミズキ殿は本当に自覚が無いようだ


原因がわからぬ事にはどうにもならんなこれは
しばらくはこの有様も止む無しか
む……？
諦める雰囲気にならないでお願いだから！
修造魂ッ！
明日にはおじいちゃん達が帰って来るのに…
危うし！
?!!
え？屋根？
なに？あたし…
おのれ賊が！出来おるわ！
？
うそ……
なんで急に…


腕も刀も錆びてんじゃないか
いやっかまっしい！
カッコ悪ー
外したー
怪しげな女賊共！
ここを我が家と知っての狼藉か！
あカワイイ
殺すんじゃないよ
返答如何に依らず斬る！
この人の話を聞かぬ気満々の干物共はなんだ？
おじいちゃん達…
なんで？…
帰ってくるの明日って…
「おじいちゃん」？賊の分際で馴れ馴れしい！
とにかく斬る！
いや待っておじいちゃん！
話を聞いて――！
ギャー
最低の日の始まりでした
第一話／完


チュン
チュン
チュン
悪夢の一夜が明けました
?!
なんで裸で寝てるのあたし!
ええと眼鏡…
──でも…
眼鏡は…


第二話
騒がしいひと
絶望の朝が来ただけだったりします
メガ……


何？
なにがどうなってるの？
昨晩は確か――
待って！
待ってってば武蔵おじいちゃん！
いやっかまし！
馴れ馴れしく呼ぶなと言っておろうがこの曲者が！


銃刀法違反！
銃砲刀剣類所持等取締法違反だって！
え－と二百…何十条？
傷害罪は懲役15年以下か罰金……！
もう完全に未遂超えてるって！
なんで闘っているようであるですか？
嬢さんお名前は？
あカマドというですよ
ボク延寿キミ美人って言われない？
それに過失致死じゃないし！
こんな殺る気満々じゃ絶対殺人罪！
メジャーな199条は死刑アリだから！
やめて武蔵お爺ちゃん！
あたしミズキだってば！
ウソは死んで言え曲者めが！


またコケた
ウチのミズキの鈍臭っプリは宇宙大会級じゃい！
斯様な身のこなし弥勒が来るまで待ってもムリじゃやっ！
酷っ…
ぬっ……
ど……
どんくさくないもん！
語るに落ちおったな曲者！
七歳まで寝小便たれとったミズキにワシの剣を白刃取りできてたまるか！


名誉毀損って
死刑で
よかったっけ…
うむ…
激しく
殺意が湧いて
おるが……
殺して
よいのか？
いいけど
よくない！
ぬぅう！
筑後の逸品が！
おのれ怪性め！
ワシを本気に
させ――
おわーーっ


いい加減にしな
パン
パン
ミズキ
ミカサお婆ちゃん？……
ミズキなんだね？
お婆ちゃん…
わかって…
くれるの…？
まあ 様変わりしちまって…
う……
耄碌しおったなババア！
そいつのどこがミズキに見えるんじゃ！
黙んな刃物オタク
バーカ バーカ
自分の孫娘の見分けもつかないド老眼なんざくり抜いて銀紙でも貼っとくんだね！
婆ちゃんだけ…
ミカサお婆ちゃんだけわかってくれた…
当たり前じゃないかね
フフン


怪しいヤツがいるから斬っちゃえってけしかけたのは誰だっけー
黙んな
いつまで素っ裸の孫娘をほっとくつもりだい！
男どもはさっさと家に入ってフロでも沸かし！
はいよ
ホウ…
なるほど…
アタシらが居ない間にそんな事がねえ…
そっちのカマドさん…かい？
はいでございす
その…ミズキに取り憑いた…スザクさんと直に話はできないもんかね？
判らないのであるです
可能であろ
ミズキ殿に「許す」と言うてもらえればの
え？
……


ええと…
「許す」けど
どうやっ…
スザクと
申しまする
御祖母殿


成る程…別人だね
即刻ミズキから出て行けいい！
いかねば斬…！
振り出しに戻すんじゃないよ骨董品
出て行ければとうにそうしておる
…どういう意味だい
吾はいまやミズキ殿から出て行きたくとも出て行けぬ
このとおりミズキ殿の協力なくしては会話も出来ぬ有様
捕らわれたのは吾の方だということよ
そんな…
元に戻す方法は？
さて
原因そのものがわかりませぬでな吾にも皆目…
居直りおったな物の怪が！
…躾の悪い爺い共で悪いね
御祖父殿の反応の方が自然であろ
吾にもわからぬこの有様を御祖母殿はよく信用できるのう


アタシャあ これでも 巫女(ふじょ)の血筋でね
今じゃあ 人様よりちょいと 気配を読める 程度だが… 孫の気配くらい 間違えやしないよ
あんた達から さほどの 禍々(まがまが)しさも 感じないしね
ほう…？
…やはり この地所は 「神域」で あったか…
道理で 圧迫感がある
神社だったのは 明治の頃までの 話さ
知らなかった…
ともあれ… 大事なことを 聞いとこうかい
スザクさんや
スピ スピ
あんた達ゃ 一体何だい
温泉まん



吾が何かなど吾も知らぬ
物心のつく頃にはもうしだを食らっておった
しだ？
之太よ…ひとが咲いて散るまでの時過ぐる一時…
ふん…万葉か浮船かい？
…有り体に申さば——
寿命だか歳月だか…盛りなる一時を他からいただいてこの身を永らえておるものさ
はあん…？
歳月ってなぶっちゃけ命そのものと言っていいさねその命を食らって生きてるって事は何かい？
吸血鬼みたいなもんかい？


さあ……
吾が決めても
仕方なき事……
あーーっ
スッ
ミズキかい？
忘れてた！
こんな
場合じゃないよ
おばあちゃん！
人が死んでるの！
通報しなきゃ！
ワタ
ワタ
死んだって…
さっき聞いた
最近よく来る
チンピラの
ボンだろ
ミズキを
刺したって
いう……
じゃ
死んで当然
じゃないか
だね
へ
ow
怒るのは判るけど
死体を
ほっとくわけにも
いかないでしょ！


さっき見たけど死体なんて無いよ？
え？
ほら裏口
ね？つまんない
ちぇ
何撮りにいったんだか…
変態が
崩れちゃったんだ…
骨になって！粉々になって…
死体損壊？死体遺棄？
じゃなくて時を…
食べ…られた？
あたしも…食べられてたかもしれないって…
化け物……
スザクさんや
何だミカサ殿？
遅くなったが礼を言わしてもらうよ


そんな…お婆ちゃん！あたし殺されそうに…
そうじゃ！ババア血迷ったか！
あんた達なに聞いてたんだい
キッ
ギャッ
この人たちがいなきゃアタシらがのほほんと温泉に行ってる間にミズキは死んでたって事なんだよ
それは…
わからぬな…吾はそれを傍観した この有様も助けようとしての結果ではない
ス…
聞いての通り人の時を食らい消してしまう事など造作もない存在ぞ
ああそりゃ問題ないね
アンタが消してなきゃアタシらが殺ってたさ
人殺しにならずに済んだよ
ああその礼もしなきゃね
嘘を言っている目ではないぞ？ご祖母殿…何者だ？
ムゥ…
あたしもたまにわかんない…
さあとりあえず明日だ！今日はもう休むよ！
パン！


記憶
あれから いったい 何が……
ここまで
あ… 眼鏡が無くても 見える…
フチどりがない 視界で鮮明に 見ちゃった…
ん… おお… ミズキ殿 お目覚めか
人ん中で 器用に 寝ないでよ！
どー なってるの！
なんとなく 聞きたくないけど ここどこ！
知らぬのか？ ミズキ殿の家の 近所だが…
近所の…！
あれか――
連れ込み宿の ようなモノであろ
HOTEL ラ・マン
誰か行くんだろ…


人が寝てる間に一体何したの！
それに…ベッドの…
ス〜ザクちゃ〜ん
ゴトッ
おはよー
ドドン
きゃーーーっ
もう…今更だなァ
へへ
ベッドではあんなに激しかったのに〜
でもそういう初々しいのもいいねえ



いやあああぁぁ
なんで！
どうしてこんな…
ちと試してみようと思うたのだ
この態でも時が喰らえるか否か――
行きずりに丁度いいのが人気の無い所に連れて行ってくれたでのう
安心せい問題なく時は食らえたさ
礼に少々楽しませて――
行きずり？
知らない男と…！
あ……
あんまりよ…
ミズキ殿？
あんまりだって言ってるのよ！



この淫乱！
あたしが許さないと勝手にできないんじゃなかったの!?
うむ その通りであるが
「許し」が下りたまま特に禁じられもしなかったのでな
ヘナ…
そんな…
だからって…！
じゃ…じゃあ約束して！
勝手にこんなこと…
エッ…エッ…
他人のその…時を食べないって！
ふむ…「約束」か
やむを得ぬな


何を…したの？
約束だからな
あの男からいただいた時を返したのだ
ついでに中身も吾らと出会う前まで巻き戻しておいた
どういう…
何も無かった事になっただけさね
…覚えてないって事？
イエわかんないけど…
はは…
こっちはそんな訳にいくか――
ひっどいロストバージン…
約束を守ったのになぜ泣く？
？
知らない行きずりの相手に処女捧げて落ち込まないわけないでしょう！
おおそんなことか
「そんなこと」って…


安心しやれ
何もさせてはおらぬよ
……え
さして吾の好みでもなかったしのう
じゃあ…
時を頂くために肌を合わせて少々気持ちよくしてやっただけだ
ふむ…具体的には——
——という程度の手管——
もういい…
生々しい…
色々初体験には変わんないし…
…ねえ!
何か
しだって返せるものなの?



当たり前であろ
ガタッ
じゃあ 昨日の人も――
あれはもう無理だ
あそこまで消えて終うとな
トボ
トボ
大問題だー
自分を殺した相手に情けとは…
熟々平和だのう
世の中には法律ってもんがあるの！
ふん…時を食って消してしまうのは法の罪ではなんというのだ
うわあ…
人外に法律で突っ込まれた…
あの人にだって多分 親や兄弟がいるんだし…
法律以前に人として――
ミズキ！



ゴゴゴゴ
怒っているようだが？
朝帰りなんて初めてだもん
心配かけたから当然よ…
うわ
ただいま…
門限10時てな朝のことじゃないんだよ！
はい…心配かけて…
昨日の今日さ心配して当たり前だろ
一体どこ行ってたんだい
いやミカサ殿これは吾の我が儘での
ちと殿御と連れ込み宿に――
ケロ
バカっ！
その…お婆ちゃん達…


ドドドド
ドンドン
ドンドンドン
ゆっくり聞かせてもらおうかい
チキッ
記念ー
この後
家族会議
白熱
最低の日
記録更新中ーー
あ

第二話／完


うん…そう
まだ風邪が
治んなくって
ん…それは
大丈夫だけど…
うん…うん
もう少し
かかりそうなの…
え……
民法の
馬場教授が？
追加
レポートって…
酷……
前のレポートも
まだ…
え？
いやほんと
それどころじゃ
なくって――
――うんお願い…
みんなにも
心配ないって
伝えといて…
なんだ
ミズキ殿は
学生で
あったのか
まあね…


なにゆえ学校に行かぬのだ
学問のみに邁進できるというのは今代にても恵まれた身分なのであろ？
スザクが言うなー！
ギクッ…
第3話 悩むひと



あ…違う違う
スザクさんに言ったの！
あたしミズキだから…
ごめん武蔵お爺ちゃん
ね？
慣れない暮らし――
緊張感のある暮らし――
武蔵お爺ちゃんはピリピリしっぱなし――
あたしにも実感ないのにすぐ慣れるのは難しいだろうけどさ…
ピシャッ
姉様――


カパン
皆様もー
ご飯でございましてありまーす♪
カパーン
カパン
カパン



それ以外は
なんでこんなに
馴染んでるんだろ――
お待たせで
あるです！
任せきりで
悪いね
カマドさんや
大好きなので
気にしては
ないでありませ！
ボヒャ
はい！
姐様！
うむ
あ…
うん…
カマドさんは――
台所を見るなり
家事を手伝うと言い出して…
あっぱれ
ご飯を
作るので
あるです！


…何か手伝いましょうか?
いいのであるです!
でも…悪いし
いいのです!
…完全にウチの台所を占拠した
ほんと美味しいな—!
沢山お食べてくださいな
ミカサが作ると大雑把だしミズキのは薄味で地味でさ—
そんなに盛らんでよいわ!
地味でいいもん
ガツガツ
手出しさせてもらえないのが納得できるくらい美味しいのはいいんだけど…
ハ…
姐様お代わりであるですね!
シャッ
そんなにお腹も減らないのにたべちゃうんだよね…
二人分てこと?
ガッ
さすがに太りそう…
吾らに普通の食い物はさして意味が無いゆえ安心せい
ゴクン…


カマドは所以あって食い物への関わりが好きなだけでな
パク パク パク パク パク
食べなくても大丈夫ってこと?
たし程度にはなるとしか…
さほど長く絶食をしたことがないのでわからぬ
だいいち…
それって生き物?……
ミズキ殿は滋養のみの為に食事をしておるのかえ?
まあ…そりゃ…
スザクさん達は──意外と自分たちの事を知らない……
──というより興味が無いみたい
それでお婆ちゃん…何かわかった?
ズ
──とりあえずこの神社の事から調べてんだけどね
ツ
倉庫をひっくり返して古い資料を漁ったんだがなかなか不思議な事がわかったよ
ゴリ…


不思議なくらい なんにも わからない
倉庫に残ってたのは アタシのひい爺さんの 小遣い帳だの 下らないもんばっかしさ
縁起も神体も 氏神についても 不自然なくらいまるで 記載が残っちゃいない
官庁や自治体にも ここに神社が あったなんて 記録自体 残ってないねー
個人の研究者とか 蒐集家も あたってみるけど… 難しいかもねー
要は 手がかり無しと いうことか？
まあ…まだ 色々とツテは あるけどねえ
ていうことは…
ギク…
ズ
そう…
ミカサお婆ちゃんも 延寿お爺ちゃんも あたしを 元に戻す為に… 色々調べてくれてる…
草書とか 読めない
パソコン つかえない
そんな中 今のあたしは基本 役立たずで——
年令的に ツテもなし
正直時間が かかりそうでね
てなわけで ミズキ—— スザクさんも


しばらく
その有様で
普通に暮らす・・・・
覚悟をしな
世話を
かけておるのは
承知…
吾に何の文句が
あろう
ええと…
そんなこと
言われても…
ガーンッ
アンタの
悪い癖だよ
現実を見な
ミズキ
目を逸らしたい!
まずは服を
なんとかしな
カッ
年頃の娘が
下着もつけないで
つんつるてんの格好
してんじゃないよ!
グッ
だって全部
サイズが…



じゃあさっさと買っといで！
春休みにバイトしてたろ
あれ 免許資金…
どこかまだその体を自分じゃないと思ってんだろ
アンタがその体を自分の体だって思わなくてどうすんだい
自覚が無いからだらしない格好しても平気なんて幼稚な娘に育てた覚えはないよ
僕が見立ててあげよーか？
ミズキ殿の衣服の感覚に関しては吾も少々もの申したい
こっちも!?
四面楚歌！
上布とは言わぬが絵羽の趣味のよいものを――
和服は却下よ！
大学もいつまでも休んでるわけにゃいかないだろ
え？
この格好どう説明すれば…
整形したって言い張る
ムカ ムカ ムカ
ええい よってたかってなんじゃや！
じゃあ ミズキが悪いとでも…


ガラッ
おはようございます
これは ご壮健そうで なにより
ご機嫌麗しくとは いかないようで
おう！ワシゃ 機嫌が悪いんじゃ！
ケガしとう なかったら 疾く去れい！


ミズキさんはご在宅でしょうか
しつこくワシらを追い回しとったと思えば今度はミズキに何の用じゃ！
ウチに火をつけるだけでは飽きたら――
ミズキになにか用かい？
「火」？…何のお話で
あの子は風邪をひいて休んでるよ
それはお大事に
こっちの問題もあるんだった…
ああ カマドが食らったやつの片割れか
些細な問題だと思うが…
人一人消えることが些細な社会じゃないの！
いえ・・・後見人の皆さんからもお勧めいただくようご相談したいんですがね
…ふん
嗅ぎつけるのが早いこった
そうだ…
この土地の所有者があたしになってるってどういうこと――
御不調であれば仕方有りませんね


ここ数日日参を欠かして失礼しました
ペコ
色々と騒ぎがありまして…ああそうだ
永遠に来んでええわい！
伺いたいことがあったんです
先日からいつも一緒に伺っているウチの助手が行方不明になっていまして
ギクッ
顔をご存じな方々に姿を見なかったか聞いて回っているのですが——
どちらかで見かけませんでしたでしょうか
姐様ー♪
トテ トテ
お昼は何がいいのでありま・む——
しばらく大人しくしてて！
あんたが食べちゃった人の話してるのよ
これ以上ややこしくしないで！
身内の問題で恐縮ですが…
ちっ…チンピラの顔なんざいちいち覚えとらんわ！
………？


そりゃ心配だろう もし見かけたら連絡くらいしてやるさ
ご親切痛み入り…
あわぁぁぁぁ
ミズキ!!
今のはミズキさんの?…
…熱で魘されてるだけさ
…お取り込み中のようですのでまた伺います
ミズキさんにくれぐれもお大事にとお伝え下さい


ドタ
ドタ
ドタ
ドタ
なんの騒ぎ!…
オ
オ
オ
オ


ミズキ？
こっ ミズっ…
これは どういう 事じゃ！
黙れ 武蔵！
お婆ちゃん…
ヒック
あたし… 消えてる…
ミズキ！
スザクさんと 代わりな！
う…うん
ヒック
「許す」
ミカサ殿… よき判断に 礼を…
あとにしな！


アンタにゃ何が起こってるか判ってるようだ
どうすりゃいいんだい？
うむ…
カマド
来やれ…
あいはいー
ミカサ殿 とりあえず人払いを願おう
ミズキ殿が見られるのを望んでおらぬ
アワアワ
なに！？
…そういうことかい…
ほら！出てくよ！
ミズキが…
延寿！カメラぶっ壊されたいかい！
えー


ぷー
ぷー
助かっ…
……


まさか…
それで――
何が起こったんじゃいったい！
聞かせてもらえないかね
何と言われてものう…
吾らがどういうものかは話したであろうに
時を食べるとかって？
そういう妖怪なんじゃろうが！
人とて味わう為だけに食事をするわけではないのであろ？
！


人は食わねばどうな…
それ以上言わないで!
そういうことかい…
そうだ…
時を食まねば吾らは消える
まだ些細な問題が気になるか?
…?
…あんた何勝ち誇ってんの?
メガンテだし
「最低の日」記録更新止まらず
第三話/完


水城です
食べないと消えちゃうって…
なんで消えかかるまで言わないのよ！
なんか人から時とか吸わないと消えちゃう体になっちゃったみたいで大変です
他人を勝手に食うなと言ったのはミズキ殿であろう
吾は約束を守ったまでだ
だいたいミズキ殿が時の無駄使いをするからだ
そんなもの使ってないし…
だいたい…消えるって…消えたらどうなるの？
さて…さすがに完全に消えたことはないのでな…
ミズキ殿は人間が死んだらどうなるのか知っておるのかえ？
つまり…
…消えたくなかったら人殺しをしろってこと？
死なぬ程度につまみ食いする事も可能だがの


第4話 学校のひと


…何るぎあ そりっどだ 何故俯く 背筋を伸ばしやれ
頼むから… 黙って…
スザクと話してると ハタから見たら 独りごと言ってる ようにしか 見えないし
世間に何ぞ 引け目でも あるのかえ？
あんまり 人に見られたく ないの！


まさか
見目の事を
言うておるのか？
我が姿に
何の引け目が
あろうか
………
思っただけで
会話できるとか
ないわけ？
互い
思うところを
ただ漏れに
せずに済んで
幸せよの
ピッ
カード出席登録の
授業はまだ
問題ない方だと…
思ったのに…


植物の心みたいに
平穏にとまでは
言わないけど——
地味に生きたいのに…
また俯いておる
堂々とせぬか堂々と
ザワ
ザワ
ヒソ
ヒソ
あんな美人いたっけ？
部外受講じゃねえ？
ヒソ
ヒソ
皆が注いでおるのは羨望の眼ぞ
吾とて決して不愉快ではない
フフン
宮森水城だってバレたら
元に戻ったとき説明できないじゃない


まだそんな先の事を思い煩っておるのか？もっと差し迫った問題が――
ビクー！
美人だ！
ドクン ドクン ドクン
美人がいる！
なぜドイツ語？ シャン…
ビクッビクッ
また…


見たことない
ハクいスケが
いるぜ！
それは
江戸時代の
盗賊用語だろう
「スケ」が
わからないな
くるな
くるな
どうした
ミズキ殿？
無視
無視
私 松川！
ヨロシク！
あなた
何学部？
名前は？
法学部じゃ
ないよな！
え？
ビクッ
ええと…
ポロリ
スザクって
います…
…？
よいのか？
…
うわー
ミズキそっくり
ドキッ
声が
…もしや
知り合いか？
あ
カクッ…



ほら いきなり馴れ馴れしく するからびっくり されたじゃないか
友人が失礼しました 私は大町といいます
松川は あなたの声が 私達の友人の 宮森水城に よく似ていると 感想を述べた だけで他意は ないのです
はあ…
だよね
松川は 凶暴な小動物ですが 人付き合いの 距離感が壊れている だけですので どうか気にしないで 下さい
大町ー それフォロー してなーい
うん
知ってる…
?
いえ… 気にして ませんから…
ブルブル
そんなわけで 隣いいよね
え？
ビク


ふむ…
少々調子はよいが
悪いカゲは
見えぬのう
ミズキ殿は
正体を隠したいのであろう？
嫌なら嫌と
言うた方が
よいのではないか？
何か言ったら
ボロが出そう…
ふむ…
思うて
おったが
ミズキ殿は…
今ひとつこう…
なんというか
主体性というか
覇気というか
自己主張というか
自信というか…
ん〜
最近
いじりがいのある
オモチャが病欠
してて退屈でさー
あーさっき
言ってた水城って
地味なコ
なんだけどね
ヒィィィ
あたし被告で
検察側複数で
弁護人が
いないって――
たすけて〜


イライラ
イライラ
ウロ
ウロ
ウロ
ウロ
ムキ
ムキ
武蔵様はお腹が空いておられましょうか？
ミズキが心配なんだろうさほっときな
イ
学校にいく程度でテンパって…幼稚園児じゃないんだまったく…



こないだ
ミズキが消えかけた
時も……
吸えい！
ワシのを吸え
ミズキ！
遠慮はいらんぞ！
枯れてもこの
宮森武蔵！
少々の寿命を
吸われたくらいでは
びくともせんわ！
落ち着きな
申し出は
ありがたいが…
条件に合わぬ
僕ら枯れて
るってさ
そういう訳では
ないのだが…
いーい機会だ
ミズキも
ちったあ
鍛えられる
だろうさ
姐様が
一緒ですから
大丈夫で
ございますね
ハア…
あのバカが
なんのかのと
甘やかし
ちまったせいで
ミズキは歳にしちゃ
子供っぽすぎる
そんなわけにゃ
いかないのにさ…


もつ焼
ガヤ
ガヤ
ガヤ
ガヤ
あたしなんでここにいるんだろう
カンパーイ
ワァ
と言われても
ワァ
学部は
名前
ドヤ
ワァ
どこ住んで
サークルは
ドヤッ



ギャー!!
わー
マツゲが出たー
ごめんねー
テキトーな
飲みがあったから
誘ったんだけど
ロクなのいなくて
ガタ
ううん
で学部は…
どこ住んでんのか
彼シいんの
私はね
それから〜
はう…
同じではないか
嘘が増えるばかりだな
わかってる…
あ……
北谷君…
北谷君も来てたんだ…
おまたー
あー北谷も来てんだー
酒が不味くなるなー
ギョッ
いやね
トモダチが
アイツの事
好きみたい
なんだけどさー


バレバレなんだけどさ
バレ・・・
あの北谷ってヤツ？
ちょっと二枚目ってだけで人気あんだけど正直いいウワサ聞かないいんだよねー
そのトモダチは引っ込み思案だしアイツが目をつけそうなタイプでもないし
実害が無さそだから何も言わないけどねー
松川はなんだかんだと水城に甘い
個人情報バラしてんじゃねーよ法整備進んでるんだぞ
なんだよ夢見るくらい人権じゃん
名前出してねーのに
私は前々からはっきり伝えた方がミズキの為だと思っている
スザクはモテんだろー
…そんな事…
呼び捨てとな…
まあさっきのオトコ共の反応が答えだねー
お
北谷がこっち見てるスーちゃんが気になるのねー
スーちゃん…
ムゥ


安心して アイツも 私の事苦手 みたいだから 近寄ってこないし
なんか…
ミズキ殿？
色々 ショックだ…
もしや 酒豪なのか？
ごめんなさい…
ちょっと 用事があって お先に…



松川…
なかなか面白い学友がいるのう
あたし…あんな事思われて…
ミズキ殿の事を慮っておったのう
勝手な事…
そうか？
他者の主体性まで尊重するというのはなかなか出来ぬ事だと思うが
オモチャって言ったもん！
ズルズル
おもしろがってたんだ…
悪い酒だのう
酔ってないもん！
やれやれ…酔い潰れるなら体を渡せ
ん？
んー許す…


はえ？
!?


スザクさん
?
北谷君?
なんであたし…
君から誘ってくれて嬉しいよ
え?
「君から」ってまさか…
違う…
待ってー
待つ…
…?



？
？
何…これ
…こ。
止まって…？
スザク！何したの！
やっておるのはミズキ殿ぞ
あたし？
やれやれ…また時の無駄遣いだな…
フゥ…
武蔵殿と立ち会うた時にもやっておったではないか
え？
判らずに使っておったのか
周りがゆっくりに見えて…
吾らの方が速くなっておるのだ
いや～えっと…これって…
あ…あたしなんでこんなところにいるの！
またホテルっ!!
それにきっ北谷君まで
アワ
アワ
ミズキ殿が酔い潰れてしまった所へこの男が現われたのでな



吾が誑し込んでおいた
なんて事すんのよ！
なんだ？この者に懸想しておったのではないのか？
思いを遂げる機会ぞ
学友に腹を立てるほどこの者が好きだったのであろう？
君ハーフか何か？
すごく綺麗だ…
あ
これは…
あたしじゃ…
ん…
クラスのやつらなんかと全然雰囲気が違うよ
ズキ…
どうして嬉しくないの──
そういえば松川と一緒にいたみたいだけど…


あんまり彼女に近寄らない方がいいよ
レズだって噂だし
君はストレートだよね
……？
？
嬉しくないどころか――
待ちやれ！ミズキ殿
なんでこんなに腹が立つの――


…何したの？
あたしが？……
吾は何もしておらぬ


まさか…殺し…
いや…食べたのはほんの少しだ…
荒っぽくやったので気が飛んでいるだけであろう
あ…
キュ
…あたしが欲しかったのはあんな言葉じゃなくて
松川は確かにヘンだけどあんな言い方…
あたし…腹が立って…こんな事で…
友人を侮辱される事は「こんな事」か？
そうじゃないけどこんな——
過失傷害？
違う——
食べようとしたんだ
いろいろな事の腹いせに
あたし…が


こんなの殺人未遂よ…
ビシィ!
判ったミズキ殿
腹が減った帰ろうぞ
真面目に言うておるのだ
こんな所で腹を空かせてものを考えるものではないぞ
その日あたしは――
自分が大事なものを失った気がして――
閂
飲んで10年前様なぞ10年早い
わーいジッ掃除
ごはんあるですよ
まあわかればいいんじゃ甘!
スーちゃんさー
マジミズキそっくりじゃね?
ヘタレっぽいとこ
見た目
あのスペックで中身アレって激レアだよ
おもれえ
なあデカマチ!
松川…
君…小動物を可愛がり殺す前の幼児の目をしているぞ
第四話／完


やめて！　違うー！
ズズ
ズズズ
そんなに楽しそうに…
あたし・・・じゃ・・・ない・・・！
食べてない！…
気持ちいい…
満たされる…
嫌だ……
気持ちよくなんて……
痛っ？


夢――
なんて生々しい――
グッタリ…
生(ナマ)――?
ガタン…
第５話　惹き寄せるひと
?
夢…じゃ…
ムニュ…


ゴゴゴッ
誰!?
誰!?
ドサッ
ていうか…
あたし…まさか?……
うむ
無意識で食べておったぞ
ファ…
あわわわ
返さなきゃスザク!
ミズキ殿が食べた時はミズキ殿しか返せぬ。。。
ムニャ
………
えーと…
どうやるの?
……瞬きの方法を問われて説明するのと同じくらいに難しいのう…寝起きに…
ファママ


延寿(エーンジュ)！
あんた…誰？
ここ延寿の部屋じゃァないのッ？
なんだ……
……お爺ちゃんに用事ですか？……
あら失礼
お孫さン？
聞いてたのと随分違うわ
あたしったら…
ごめんなさいね
延寿の部屋はどこ？
階段下の右の…


あれだけ元気ならば大丈夫であろ
住居侵入罪…
また痛そーな人だなー
「また」？知り合いか？
うんにゃ
あれは延寿殿の縁者か？
ううん？多分「女のひと」
こないだ延寿おじいちゃんが部屋替わってくれたから間違えたんだと思う
「女のひと」とは……？
「情人」とか「愛人」という意味合いに聞こえたのだが？
間違って夜這いかけられたのは初めてだけど…
いきなり押しかけてくるのはいつもの事だし…
延寿！



隣のおンなは…
だれ？
カマドであるですよ♪


ミズキ殿が うろたえぬとは 珍しい…
放っておいて よいのか？
丁寧に低い評価で 悪かったわね
とにかく…… 延寿お爺ちゃんの 恋人がブッキングして 揉めるのは いつもの事だから
今日は刃物が 出ないだけ マシかな
ほう…
またかい うるさいねえ
ミズキの件が あったから ここんとこ 大人しかったん だけどね
カマドはともかく 延寿殿に危険は ないのか？
心配したことも あったけど……
ん？


お・・・
ほお・・・
いっっっつも このオチだから
心配するだけ バカバカしくって
はー
なんというか たいしたものだな
コロ・・・
カマド 無事かえ？
はいですよ


ひっかかれたり
しまされたのですぅ
なぜこのような時分に
延寿殿の部屋になぜ
ゲームというのは
楽しいのですで
ございますよ
さりげなく
化け物だなあ
いやっかましい！
夜更けになんじゃや！
またお前か
延寿！
春先の
猫みたいな
真似は他所で
やれい！
はーい



今更だけど延寿お爺ちゃんてなんでモテるの？
アタシにもさっぱりわかんないね
ヘンなフェロモンでも漏れてんじゃないのかい？
こないだの温泉旅行の時も旅館の店子があのバカを取り合って刃傷沙汰になりかけて追い出されたさね
おかみさ～ん
小娘～ガァ～ッ
なんで夜中にいきなり帰ってきたのかと思えば……
これでも昔よりゃ随分マシになったさ
今よりひどかったの？
最近は人死にが出てないからね
……
色恋沙汰の話よね？
大変！


朝から
なんだい
寝不足さ
ゆっ 郵便受けに！
こんなのが！
誘拐…
だよね？…
「怖いひとの女に手出しちゃいました」
「慰謝料３千万円で許してくれるって」
だとさ


めでたいね
穀潰し(ゴクツブ)が一人減ったよ
物置部屋が増えたわい
ちょっ!
ちょっと待って!
これって恋愛絡みのレベル超えてるよ!
延寿お爺ちゃん本気で危ないんじゃないの?
ていうか刑事事件!
ミズキ……
アンタはあのバカの事をわかってない
武蔵(アンタ)が教えないからさ まったく
あんな不謹慎なヤツの事を詳しく説明できるか!
この程度の事が今まで無かったと思うかい?
アタシゃ掠(さら)った連中に同情するね
……どういうこと?
放っとけってことじゃ



ふむ……
吾も延寿殿の事は
心配いらぬと
思うぞ
少なくとも
命にかかわる
事はない
なんで？……
カマドが
無反応だしのう
お昼の
メシ～
？
でも…
ゴゴゴ
ガシャ
アニキの女に
手ぇだすなんて
ふてえジジイだ！
ガハハ
おいおい年寄りに
粋がったって
男は上がらねえぜ
酷い事
しないで！
うるせえ！売女が
イカれやがって
あう
ふん…
こんな枯れ木の
どこがいいんだか…


安心しろや
これでも年寄りは
敬うタチでな
脅えるし
落とし前は金で
つけさせてやる
騒がしいね
取り込み中かい
跳ね回ってる
ようじゃないか
こっこれは
姐御！
本家のオヤジは
お元気で…
今日は
どのような
ご用でしょう
なんだい
この人は
いや……
あっしのイロに
手を出した
ヤツでして
…大の男がよってたかって
年寄りをふんじばるのは
格好いいもんじゃないね


へえ……スジを通せば丁重に返しますんで
何をするつもりだ？ミズキ殿
延寿お爺ちゃんを連れ戻しに行く
ほう…？
話し合いが通じる相手なのか？
あたし……今
強いんだよね？……
……


まあ ただの人間相手ならどうにでもなろうが…
延寿お爺ちゃんを助ける為だから…
嘘…だ…
警察に通報するのが先なのに…
あたし……この体で暴れたいって思ってる…
監禁場所は判っておるのか？
スザクならなんとかなると思って
………
カマドならなんとかなろうが…
なんというか粗忽者の多い家だの……
もう！こんな時に…
はいもしもし？宮森ですけ──


延寿おじいちゃん？
あー
ミズキ？
あら
いい人？
妬くわよ？
愛しの孫娘さ
いやあの
晩ご飯は
いらないとか
そういうんじゃ
なくて！
捕まって
たんじゃ
なかったの？
親切な人が
助けて
くれたって？
やっぱり……
ッたく…
そのカッコは…
延寿お爺ちゃん
今ど！……
切れた…
ね…最後に
聞こえたのって…
銃声のように
聞こえたがな
まさかね…


組織のボスと身内は処分した!
こいつは?
上級構成員か?
待て!
この男は…
敵組織の人間と逃亡?
同志から裏切り者が!
ちょっとお爺ちゃん昨日は一体──
今どこだって?


マカオ？
冗談言ってないで無事なら帰って来て
ヤクザの家でガス爆発だってさ
ニュースでした
フンおおかた内輪もめじゃろ
じゃねー
どこに…電話を？
うん
定時連絡さ
フフ……
あなたって何者なのかしら


今ハノイ？
どこそれ
ハノイ
マカオ
南下しとるのう なんでだ
「はのい」って温泉地か何か？
今日もごはんいらないのね？
なんか女の人の声しなかった？
どこだって？
お婆ちゃんの言った通りだ…
ムカ ムカ
なんかすっごく心配したのがバカバカしくなってきた
人様に迷惑かけてなきゃいいんだけどね
アイツぁ最悪のサゲチンだからね
サゲチン？
何が最悪って……
延寿と付き合って不幸になった連中が全員幸せそうなツラしてんのが恐ろしいのさ
教祖にでもなればよかったものを


そろそろ
帰ろうかなー
ドドド
カスイスス
あらだめよ
一族の仇!
ヤヤヤヤ
放さないわ…
エンジュ……
今日は
「フエ」だって
何県?
また南下
しておる…
フエ
バカ
いい加減に
帰ってこいって
言いな
ゴー
キィィィ
ただいまー


アハハハハ
——てなかんじで
なかなか帰れなくってさー
やっぱ我が家が
一番だねー
マフィアと
大富豪と
スパイ組織って…
みんな
良い子
だったん
だけどね
土産は？
はい
こいつが言うなら
本当なんだろうよ
じゃあ
無事で済むわけ
ないじゃない…
だからさ
疫病神ってな
本人にゃ災厄は
降りかからない
もんなのさ


えっと…
ヨロ…
随分時間をムダにしちゃった気がする…
レポートが……
ザリアアア
……
思うにミカサ殿…
スザクさんかい
延寿殿のあれは巫者の血筋が関係しておるのではないか
ミカサ殿と同じ――
だとしても
今の世の中じゃただの疫病神さ
だからああいうバカはここにいたほうがいいんだよ
ギッ
ギッ
成る程…
この聖域は結界でもあるわけか…
ザリアアアア


吾がミズキ殿に取り込まれたのも——……
もしやこの場所が問題なのか？
あ あ あッ
なあ ミズキ殿——
その女はだれッ
あー ミズキ たすけ…
ギャー
レポートの邪魔だから静かにヤって？
よいのか？
金輪際 延寿お爺ちゃんの心配はしないって決めたから
そんなことより レポート

第五話／完



すー
ヒュッ
コーンッ
コーン
コンコーン
おッ


!?
第6話　手遅れなひと


なんてとこで寝こけてんだい
だらしない！
へ？
へ？
はえ？
さっさと降りてきな！
あ…うん
？
………
なんであたし
こんなとこで
寝てんの？
……む
おはよう
ミズキ殿



なんで屋根なんかで寝てたんだろ
あの石のサイズは……
スザク何かした？
吾はミズキ殿の許しなしには何もできぬよ
トテテテ
ピンポーン
朝からまた…
すいませーん
ドーン
警察の者ですがー


す……
はい！何でしょう！
今の音は何か？
元気な祖父母でして…
玄関に出んのにいちいちポン刀ひっさげんじゃないよこのボンクラ！
いつものチンピラかと思うたんじゃい！
ええと…何か用で…
いえこのあたりで昨晩 変質者が出まして
注意を呼びかけて回っているのと…あと不審者などに心当たりがないか聞いて回っているんです
痴漢でも出たんですか？
はあ…まあそうらしいんですが…
らしい…？
イヤー


被害者が男性の…それも中年の方で…
ピキ…
珍しいというかその…何も盗むでなく衣服を脱がされただけなので強盗ではなく変質者ということになっているんですが…
いや自分も赴任以来初めてで世の中いったい——
襲われた方もされるがままとはだらしないわい
女が男を襲うとは世も末じゃ
ガツガツ
男か女かわからないよー
僕どっちにも襲われた事あるし
コリコリ
アンタはいつも加害者だからいいんだよ
とにかくミズキも気をつけんだよ
ミズキ？
ごちそーさまっ
トタトトトト


スザク？
すざーく！
なんだ
シーシー
ドクン ドクン
あたし…
昨晩何かしなかった？
夜中に抜け出して通りすがりの男の衣服を剥いでおったな
何もしてないって言ったじゃない！
吾はの


どうやら意識が無かったとみえるが…
吾が思うに――
※イメージ映像はモデルを差し替えています
ミズキ殿は心の奥底で危機を感じておるのではないか？
※耐えられないのでイメージ映像はモデルを差し替えています


喰わねば消える——
あれぇぇぇぇ
その事への恐怖が無意識に体を動かしているのではないかと
※色々耐えられないので
イメージ映像はモデルを
ギャーーーッ!
ドキドキ
ドキ


まるっきり変態じゃない！なんで止めてくれなかったのよ！
止めるもなにもミズキ殿が時を喰らうのはミズキ殿の自由であるし権利であろ
生きるために喰らうのは悪い事かえ？
生物は生物を喰らうものであろうに
〜バイオスフィア〜
いやそんな深遠でキリがない話はいいから…
あたし…
食べ・た・ん・だ…
ほんとに…どんどん化け物に…
……いや？
暫し戸惑うたように立ち尽くしたと思うたら……
ドキドキ
そのまま何もせずに家へ戻って屋根の上へ


よかった……
ギリギリ理性が働いたのね
いや あれは単に――
んー
ウシッ
喰い方がわからず途方に暮れた体であったな
あそこまで剥いておいて勿体ない
吾が喰らい方を指南して進ぜようか?
それって喰えるようになったら歯止めが利かないってことじゃない!
ポリ
ポリ
ス


何故吾らが見張らねばならぬのだ
ファ…
ポシ ポシ
何故なのですでしょうか？
ス―
頼むから止めて！
犯罪なの！警戒されてるの！
運良く目撃されなかったからいいようなもののこんな目立つ姿見られたらあっという間に捕まっちゃうわよ！
そうなったらスザクも困るでしょう？
ふむ…
確かに無意識のミズキ殿は手際が悪い
忠告しておくが襲うより襲わせた方が遥かに楽で安全だぞ
向こうから人目を避けてくれる
ファン
いいからそういうのは
ゴゴ ゴゴ
何故ミカサ殿達の手を借りぬのだ
お婆ちゃん達を無意識に…襲っちゃったら…立ち直れない
やれやれ…
吾ながら難儀なものにつかまってしもうたな
ヒ へ


……む？
来おったな…
むむ
ミズキ殿！
ミズキ殿！起きよ！
カマド！……て おい
ガラッ


……吾にどうせよというのだ
姐様(あね)!
あたし……やった?
うむ 窓から出て行こうとしておって…
姐様!・・・臭うであるのです
カパ
む…
ピク
まことかカマド
何の話?



ミズキ殿
少々体を貸して
くれぬか
…許すけど…
なんで？
問題の解決に
なるやも
しれぬ
ほんとに？
辿れ
カマド
はいでございです！
え…



ちょ…なっ
あわわわ！
何を驚く ミズキ殿も無意識でやっておったぞ？
うわ…
少し…気持ちいいかも…
ふふん♪


ここって…駅のそばのマンション？
てベランダからちょっと！住居侵入！…
大丈夫だ
カマド開けよ
あーい
?!
ここで間違いなくございましたですればー
うむ
どうやって中に…
ここに何か…


ふむ…
ぎゃあああ
落ち着け ミズキ殿
ただの死体だ
たたたた！ ひッ ひッ
死ッ！…
ひーッ！
自殺？ 首つり坂?! なんの木?!


救急車！警察！
手遅れだ落ち着けというに
カマド
ひいっ！
ギリ
ギリ
はいなです－♪
ゴトッ
何して…まさか…
ギャーッ死体に！……
グイ
まったく…気の毒にのう…
キィイ
ナミュミダブブ
ナニマンダブブアーメン
…？
ピクッ


スゥ…
息が…
何したの？
ほんの少し
時を戻した
死ぬ直前まで
スーッ
スーッ
え…
た…
助けたんだ…
ホ…
助かるんだ
この人…
なんで死んだのか
知らないけど…
よかった…
そうか…
あたしのときも…
こうして…
助けた後…
まったく
気の毒にのう…
──！
待って
スザク！


まさか…
食べる気!?
然り
助けたのに
食べるなんて
ひどいじゃない！
おかしな事を言う…
この人間は
死んでいたではないか
何が変わるのだ
気の毒だって
言ったじゃない！
これだけの
時を残して
終うたのだ
気の毒で
あろう？
せめて
無駄にせぬよう
喰うのが餞と
いうものだ
わ…
わけ
わかんない…
わかるわけがない——
そうだ…
人間じゃない


いや！
体を・・・・・返して！
？
何故邪魔をする
ドサッ
こうして時を喰らえばミズキ殿も腹を空かせて夜な夜な徘徊することもなくなろうに
それとも消えてしまいたいのか？
食べるか……
消えるか……
嫌だ——


人を食べるくらいなら——
でも……
ミズキ殿…浸るのは結構だが
カマドが——
チュ
ボロ…
考える暇無し


カマドには困った癖があってのう
人肌を抱くと寝入ってしまうのだ
やれ
あっそ…
住居侵入…
遺体損壊…?
そういう問題じゃなくて……
最悪の夜を更新して気付いた事は――
早く…
早く人間に戻らなくちゃ
あたしこんなことできるんだ…
一番怖いのは
死体でも
スザクたちでもなくて
食べるくらいなら消えるって…
はっきり言えなかった自分――

第六話／完


第7話 決めかねるひと



――その闘いは


七日と七晩続いている
疲れるよりも倦んでいる
とうの昔に飽きている


なにその
スペクタクル…
よかった…
家の布団だ…
トットイレっ
カマドさん！
ほどいてく〜
おはよう
ミズキ殿
お願い
はやく〜ーっ！
ミズキです…これは
ヘンな趣味とかじゃ
なくて
夜中に無意識に
人を襲いにいかない為の
苦肉の策です


お婆ちゃん
早く元に戻る
方法を探そ！
あたしで
できることなら
なんでもやるから！
やっと
他人事の感覚じゃ
なくなった
みたいだね
でも なかなか
手がかりが
なくてねえ
それより
アンタの言ってた
首つってた人てな
まだニュースにも
なってないね
まあモノが
消えちまったんなら
行方不明扱いだろうし
事件にゃなんないね
思い出したく
ない…
ドゥップ。
それでだ
…スザクさんに
そンときの話で
聞きたい事が
あるんだよ
コク



ミカサ殿
聞きたい事とは？
以前アタシらが
「条件に合わない」
とか言ってたね
そんときゃ
聞き流して
たんだが…
スザクさん達ぁ
無差別に人を
食べられる
わけじゃあなく
何か明確な条件が
あるんだね？
然様
聞いて
おきたいんだが
いいかい？
是非も
ないことだ
蝋燭は
ないかの
蝋燭？
以前似たような
会話をしたことが
あっての
そのときに
相手が例うた事が
判りやすかったので
同じ例えで語ろう


この蝋燭はミズキ殿だ
は？
のっぺりと地味な態だがまだ燃えはじめ…
成る程
このままならば長く火を灯すであろう
例えでなじられてる…
だが無頼な闖入者によって——
その炎は吹き消された
……
言いたいこたわかるよ
何もしなければこの蝋燭は何も照らす事無く終わる運命
だが吾はこの蝋燭にもう一度火を灯し…蝋燭は燃え尽きるまで煌々と周囲を照らす運命を取り戻した


それを吾は丸ごといただく
結局殺すんじゃない！
いや
蝋燭を消したのは吾ではないし蝋燭の運命は変わっておらぬ
成る程ねぇ言わばリサイクルってわけかい
…廃物利用というほうが正しかろうな
いや
…あのね
廃物と言うたのは例えだ何を怒っておる
……詭弁だと思う
…かもしれぬがこれは「理屈」ではなく「約束」だからな
別にミズキ殿が納得したり縛られたりする必要はない
確かにわからないね
なんでそんな面倒な「約束」とやらに縛られてんだい



隔世…何やら手強い坊主が因縁をつけて来おってのう
争うたはいいが幾日も勝負がつかなんだ…
あ……
あの夢……
泥仕合になってしもうていい加減面倒くさくなってな
吾らは人の枠に影響を及ぼさぬという約束を
コト…
この条件を持ちかけたのだ
坊さん納得したんだ…
どうかの
20分ほど下を向いてブツブツ独り言を言った挙げ句


死んだ目をしながら「ま やむをえぬ」と
うん
なんかもう 嫌になったんだと思う
そりゃあ…しかし随分と狭い条件なんじゃないかい?
うむ…病死や寿命で死んだものはだめだ どのみち時が残っておらぬ
ヒュッ
蝋燭でいえばこのようなものだ
ま アタシらも似たようなもんさね
条件に合うのは・運・命・を・変・え・ら・れ・た・も・の
まあ大体 事故か自殺か殺人で殺されたものだな
ほう…
そんなもん そうそう立ち会えるもんじゃないだろうに


カマドがおるからな
あれにはそういう臭いがわかるのだ
言わば死の臭いとでも言おうか――
見かけと違って生臭い特技だなあ…
それでミズキの死を嗅ぎつけてここへ来たってわけだね
和やかに怖い話しないでほしい…
…
そして間抜けなこの有様よ
ああ約束した条件はもうひとつ…
「我々の同類」は喰ろうてよい事になっておる
スザクみたいなのが他にもいるの？
そういう意味ではない
じゃあ何よ？
他人の時を奪うもの……


「人殺し」だ
おう
今日は色男に
なっとるのう
抗争(でいり)でも
やらかしたか
道で
転びまして
お恥ずかしい
今日も懲りずに
地上げかい
いえ
わたくし宮森様の
営業担当を
外れる事になるやも
しれませんので
色々と至らなかった
お詫びとご挨拶をと
思いまして
おう！
せいせい
するわい！


安心せい！
誰が来たとてムダな事には変わらんわい！
ゴ
オ
ォ
オ


ゴオオオ
籠っておらんでよいのか
うん…眠れないし
ちょっと考え事…
ミズキ殿の葛藤も思うてみればわからぬではない
吾とて約束が無くともカマドを喰うのは・・・最後の手段であろうしな


スザクたちが見境無く人を喰う化け物じゃないって事はわかったわよ
問題はあたし…
かまわぬぞ
へ？
別に強制する気はない
ミズキ殿が人を食うのが嫌ならばこのまま ここで消えるのも一興
……!
本気で言ってるの？
その先になんぞ知らぬ世界があるやもしれぬ
スザクってきっつい
あたし……何を言おうとしてた？
スザクに——




ぱちくり。。。
？
？
何か来る！
痛！
痛あいっ
すごい
痛い！
なにこれ？
ミズキ殿！


ひ！………
何これ！
消える！
消えてる！
まさか…
喰われた…！
代われ
ミズキ殿！
ゆっ許す！


長生きはするものだ
カマド以外に・・・本物の同類と出会えようとは
洒落た挨拶の礼をせねばならぬのう
スザク・・・？


へ？
退散だ
いっ 今の逃げる流れだった？
こちらは言わば飢餓状態だ
そのうえ相手の正体も知らんでは分が悪い！
消えるのはまだしも喰われるのはご免であろ
逃げよ！



……でも待って！ ウチに逃げたら お婆ちゃんたちが 危な……
案ずるな
思うた通り…
?
敵はここには 入って これぬようだ
よかったけど… どうして?…
結界か…
補給をせねば ならぬ
カマド!


ミズキ
いいかい
うん……
お婆ちゃん…
おいで ミズキ
トン
トン
トン
話がある
みんな
心配かけて
ごめん…
こりゃあ
家族みんなの
問題さ
その
襲ってきた
相手の事も
心配だけどね…
その事もあって
皆の意見が
一致した所だ
?



言いにくいんだけどね ミズキ…
あんた…
時を喰う練習をしな
アタシたちは聖人君子じゃあない 最低で身勝手なジジババさ
アンタを元に戻したいが… それまでにアンタが消えるなんざまっぴらだ
ゴゴゴ


だからあえて…これは家主としての命令だ
アンタの罪はアタシらが地獄へ持っていくよ
ミズキ
・・・・・人を喰うんだ
第七話／完


水城です


第8話　巻き込むひと
今日も流されてます



とまあ
このような次第よ
これカマド
寝るな
練習にならぬ
ほれミズキ殿も
喰ってみやれ
「ほれ」って言われても
体全体で呼吸をするように
いや胸のあたりに何かを集めるような
腹と胸の間のあたりで水を飲むような——
聞けば聞くほど混乱するから!
わかるかーッ
何をしてるのかというと——
人を喰う練習です



人を喰えって…
冗談だよね
お婆ちゃん…
必要なのは……
誰のせいでもない
現実ってやつに対する
アンタの覚悟さ
アタシたちゃ
外から事態を
調べてる
ミズキは
今のアンタ自身を
ちゃんと知る
ところから
始めるんだ
スザクさんに
色々
教えてもらいな
吾に異存は
ないな
待って！
あたしは…
あたしは──？
あたしはどこかで
望んで……
言い訳を探して
なかった？
お婆ちゃん達が
後押しをしてくれて
ほっとしなかった？


――あたし……
ダメだな…
え？
なに？
あわわ…
落ち着け
今の感覚だ
ゆっくりと


こう？……
うむ その調子だ
何度か覚えてる…
この感覚…
そうだ
ミズキ殿は幾度か勢いで喰ろうておる
その感覚を思い出せ
あ…？


熱っ…
何こ……
そこまでだ ミズキ殿
ドタン バタ バサッ バタン
あたし…
できたの?
おっかな びっくりでは あったがの


「できた」って何よー
何喜んでるのあたし!
その感覚を覚えておけ
今ので凡そ一月分ほどの時をカマドから喰ろうたのだ
そんなに?
カマドさん大丈夫?
まあこの程度ならば問題ない
カマドには先の戦で貯めておるからの
いくさ?……
ピク
ゾク…
ヌル…
どうした
ああ



気にするな
時を喰う際の
昂ぶりに慣れて
おらんのだろう
昂ッ……
わ────ッ!
まっ 前から言おうと
思ってたけど
なんで裸になるのよ!
裸になるのが
肝要なのではなく
肌を多く触れて
おらんと……
うむ
いい機会だ
説明では
判り辛かろうし
試してみればよい
こう?
そうだせめて
手のひら一杯程度は
触れておけ
?
ペタ
先程の要領で
ゆっくりと──
え──と・・・


…ガラスの割れる音？


水城の声だな…
悪化してんすか？
そうみたいでね
おおっ なんだなんだ？
ネコだよ ネコ
おおっ
大物だー
それはともかく…
ネコ…
最近多くてね


松川
出直した方が
よさそうだ
ちぇー
ショボくれてたら
活入れてやろーと
思ってたのに
普通の病気なら
頼むんだけどね
ゼェ ゼェ
なんで
松川と
大町が
いるの!
バーちゃんが
そう言うなら
シャレんなんないかー
講義のコピーです
水城さんに
渡しとくよ
代返の利く授業は
なんとかしていると
お伝え下さい
わざわざ
来てくれたのに
すまないね
気遣いの
来訪では
ないのか?
うん…
お見舞いに
来てくれたんだ…
ゼェ… ゼェ
ちなみに…


どうであった？
指が千切れたかと思った……
うむ
得心がいったか
大きく肌を重ねておかぬとこうなる
吾とて好きで脱いでおるわけではないわ
単に痛いのが嫌いなのだ
色々つっこみたいけど…
これはちょっとシャレになんない…


ねえ…
こんなにじゃなかったけどこの痛み…
うむ
あの時と同じ…
かなり強引に持って行かれたからの
喰われる方も痛いんだ…
いや…喰う側より遥かにマシだぞ
カマドを見ろ反応しておらぬだろう
でもあの時もかなり痛かったよ？
あちらは想像を絶する苦痛であったろうな…
なかなか根性の据わった相手だということだ
あ──


ぬかったぜ…
コピー一束忘れてるし
ぬ
悪い大町(デカマチ)もっぺんーー
悪いがこれ以上バイトに遅れるわけにはいかない
チャッ
早く言えよ誘っちまったよ付き合いいいな お前！
私も水城の見舞いに行っておきたかっただけだ
んじゃまた明日なー
すまないな
おもちゃに留年されちゃつまんねえもんなー




パチン
姐様！ 臭うたりです！
わっ
なっなに？
カマド！
あい！ すぐ近く なのでして！
何が？
言ったであろ カマドには 死の臭いが 判ると
死イ？
この辺そんな 物騒なとこじゃ ないのに
事故か何か かもしれぬ


案内せい カマド
あいでいす
服着て！服！
って何しにいくの！
喰うに決まっておろう
なんだ 腹を据えたのではなかったのか？ 何のための練習なのだ
ええと…
キョトキョト
？



このあたりだったりするです
へ？
家の敷地の目の前ではないか
このような目と鼻の先で？……
パサッ
ぼうし…



これ…
松川の…
……どうしよう
吐きそう……
第八話／完